

C-27 一般病棟での人工呼吸管理における人工鼻フィルター（FHME）の有用性の検討

福島県立医科大学医学部附属病院 看護部

中川西博子 本田隆宏

【目的】近年、集中治療室では人工呼吸患者の加温加湿法として人工鼻フィルター（以下FHME）が選択されるようになってきている。当院では2001年4月から集中治療室のみならず一般病棟での人工呼吸管理にもFHME（ハイグロバックS タイコヘルスケアジャパン社製）を導入した。これまで集中治療室などでのFHMEの有用性は数多く報告されているが、一般病棟での使用に関する報告は少ない。そこで今回私たちはFHMEの導入が一般病棟での人工呼吸管理に関する看護業務の簡便化に対し、有用性があるか検討した。

【方法】人工呼吸管理が行われている一般病棟のうち、人工呼吸患者の多い病棟を3つ選び、①そこに勤務する看護師67名を対象にFHMEに関するアンケート調査を実施、②人工鼻導入前後の人工呼吸に関する看護業務内容の変化を比較調査、③導入前後1年間の人工呼吸患者の加温加湿に関する問題点の有無を臨床記録より抽出した。

【結果】アンケート結果では、導入前の呼吸管理業務の大変さを5とし数値小さくなるほど楽になるとして5段階評価したところ、各病棟とも評価点は有意に低下し、3病棟合計の平均評価点は1.99となった。楽になった点として、加湿器への蒸留水の補充交換が不要であること、蛇管の水抜きが不要であることなどが挙げられた。導入後のトラブルの有無は「あり」が11%、「なし」が82%であり、FHMEをつけたままの吸入が4件、その他人工鼻の目詰まりや、吸入終了後のFHMEの付け忘れなどが挙げられた。アンケート対象となった3病棟について、導入前後の呼吸管理に関する看護業務の比較では、導入前は加温加湿器の電源操

作や、各勤務帯に1回程度呼吸器を外して蒸留水を補充することなどが必要であり、週1回の呼吸器回路の交換作業には医師・看護師2人以上を要した。導入後はFHMEを組み込むだけとなり、FHMEは呼吸器回路の交換は不要で、看護師1人で短時間に交換が可能となった。3病棟での導入前後1年間における加温加湿に関する問題を臨床記録から抽出した結果、1週間以上人工呼吸を要した患者のうち痰が硬くなり気管内洗浄を必要とした患者数は、加温加湿器使用中患者16名に対し5名いたが、FHME使用中患者11名に対してはいなかった。その他加温加湿器使用中に、加湿器のひび割れ・蛇管の水抜きによるファイティングのトラブルがあった。

【考察】FHME導入により人工呼吸に関する看護業務が軽減したと評価された。加温加湿器の業務が軽減したことに加え、人的・精神的負担の軽減したことも要因と考えられた。気管内洗浄の頻度が増加する傾向や大きなトラブルはなく加温加湿が可能であるが、今後人工鼻使用中の観察ポイントの徹底や吸入施行時の加温加湿管理が課題である。

【結語】一般病棟での人工呼吸管理にFHMEを導入したことが、呼吸管理に関する看護業務が簡便化に有用であったかどうか検討した。人工鼻導入による大きな問題はなく、人工鼻の導入は一般病棟の人工呼吸に関する看護業務の簡便化に有用であることが示唆された。